株式会社 群馬銀行

2027年3月期第2四半期
決算の概要

2026年11月9日

群馬銀行
（東証プライム：8334）

～私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつむぎます～

群馬銀行レポート 2026
GUNMA BANK REPORT

損益状況

連結コア業務純益（投信解約損益除き）は、資金利益に加え非金利業務利益も順調に増加し前年同期比+73億円の417億円。
親会社株主に帰属する中間純利益は+70億円の349億円と3期連続で過去最高益を更新。

決算概要

（単位：億円）

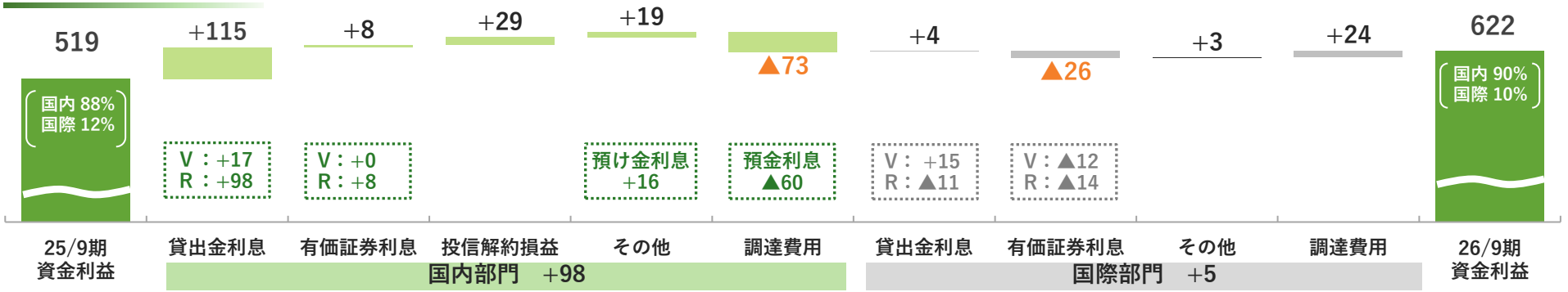
＜連結＞	26/9期	25/9期比	期初計画比
コア業務粗利益	788	+ 123	+ 63
資金利益	616	+ 100	+ 64
投信解約損益	56	+ 29	+ 56
投信解約損益除き資金利益	560	+ 70	+ 8
非金利業務利益	171	+ 23	▲ 1
経費	314	+ 20	▲ 10
コア業務純益	473	+ 103	+ 73
投信解約損益除き	417	+ 73	+ 17
与信費用	19	+ 4	▲ 6
経常利益	515	+ 109	+ 50
親会社株主に帰属する中間純利益	349	+ 70	+ 29
OHR（投信解約損益除き）	42.9%	▲3.1%	
ROE（年率換算）	11.2%	+ 1.6%	

（単位：億円）

＜単体＞	26/9期	25/9期比	期初計画比
コア業務粗利益	739	+ 113	+ 64
資金利益	622	+ 102	+ 64
投信解約損益	56	+ 29	+ 56
投信解約損益除き資金利益	566	+ 73	+ 8
非金利業務利益	117	+ 10	+ 0
経費	299	+ 16	▲ 10
コア業務純益	440	+ 97	+ 75
投信解約損益除き	384	+ 67	+ 19
有価証券関係損益	31	▲ 3	▲ 34
与信費用	15	+ 0	▲ 8
その他	29	+ 14	+ 6
経常利益	484	+ 108	+ 54
中間純利益	328	+ 70	+ 33

資金利益分析（単体）

（単位：億円）



貸出金の状況

貸出金残高は、クロスボーダーローン、ストラクチャードファイナンス、海外店で高い伸び。利回りも順調に上昇。

貸出金残高の状況

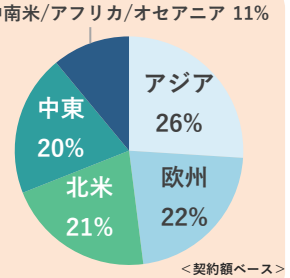
（単位：億円）

	26/9末	25/9末比 増減額(増減率)	貸出先別RORA ( )は25/9期比		貸出先別ROA ( )は25/9期比	
貸出金	73,335	2,914 (4.1%)	1.60%	(+0.38pt)	0.62%	(+0.13pt)
大企業	11,246	397 (3.6%)	2.24%	(+0.71pt)	0.53%	(+0.13pt)
中堅･中小企業	27,488	396 (1.4%)	1.51%	(+0.39pt)	0.82%	(+0.21pt)
個人	26,230	889 (3.5%)	1.36%	(+0.23pt)	0.42%	(+0.05pt)
うち住宅ローン	15,653	691 (4.6%)	2.04%	(+0.34pt)	0.39%	(+0.07pt)
うちアパートローン	7,117	120 (1.7%)	1.11%	(+0.23pt)	0.48%	(+0.07pt)
うち無担保消費者ローン	910	78 (9.3%)	2.11%	(▲0.07pt)	0.45%	(▲0.02pt)
クロスボーダーローン	2,765	300 (12.1%)	3.48%	(+0.70pt)	0.97%	(+0.19pt)
ストラクチャードファイナンス	2,837	802 (39.4%)	1.65%	(+0.33pt)	1.17%	(+0.24pt)
海外店	1,795	174 (10.7%)	1.50%	(▲0.10pt)	0.34%	(▲0.09pt)
その他（公共等）	971	▲ 45 (▲4.4%)	–	–	–	–

クロスボーダーローン

- ✓特定の地域に偏らず分散
- ✓中東向け与信は新規停止中
- ✓高格付先中心の取扱い

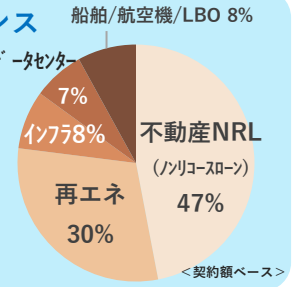
－2013年取扱開始以来デフォルトなし－



ストラクチャードファイナンス

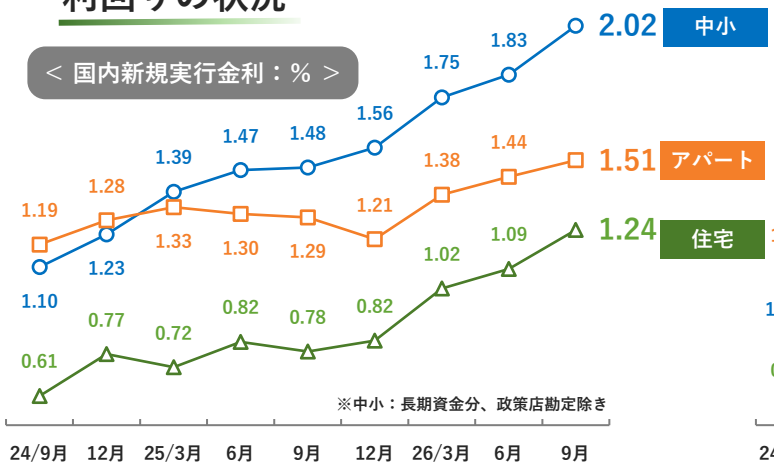
- ✓不動産NRL

－オフィス・レジデンス・ホテルなどアセットタイプの分散を図り、バランスの取れたポートフォリオを構築－
－シニア中心･LTVは60%程度－

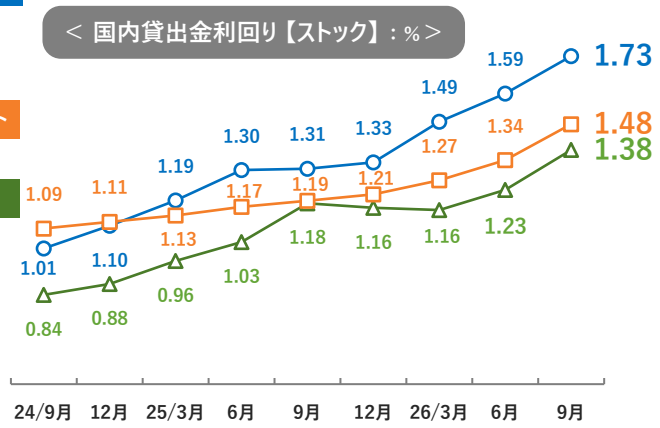


利回りの状況

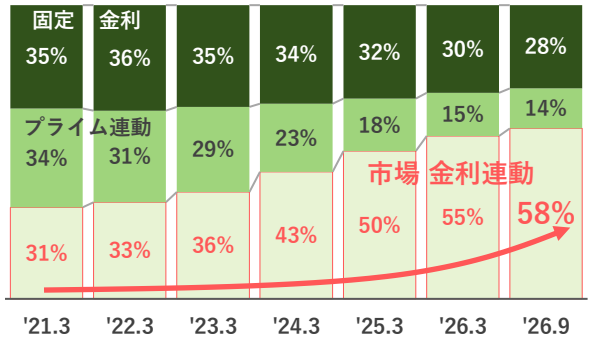
＜ 国内新規実行金利：% ＞



＜ 国内貸出金利回り【ストック】：%＞



金利タイプ別法人貸出



市場金利連動型貸出の**政策金利追随率は115%**

※同貸出利回24/2末0.58%→26/9末2.01%⇔政策金利上昇幅1.25%

預金の状況

中長期の預金戦略を通じ、良質かつ粘着性の高い預金基盤を拡充。

預金残高内訳

（単位：億円）

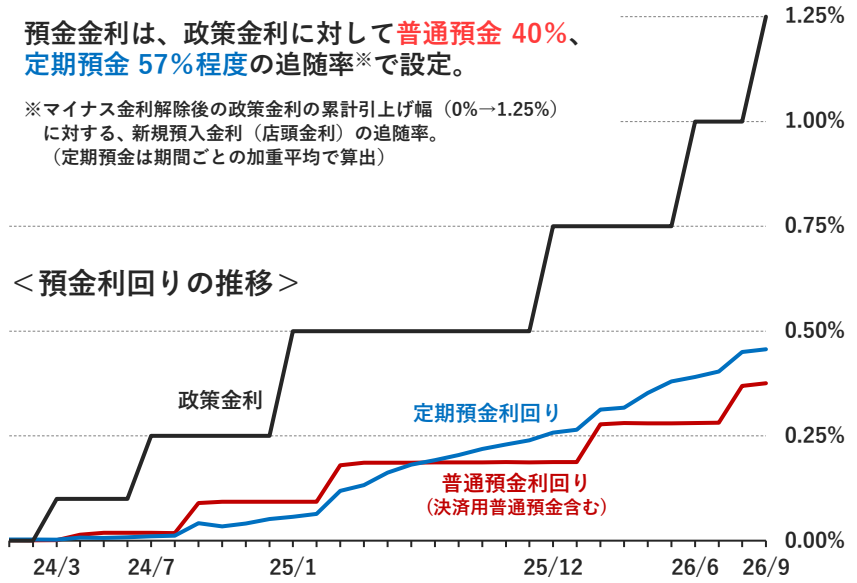
	26/9末	25/9末比 増減額(増減率)	
預金等	86,966	▲ 605	(▲0.6%)
預金合計	84,731	▲ 647	(▲0.7%)
うち国内預金	83,499	▲ 241	(▲0.2%)
うち個人預金	57,360	▲ 127	(▲0.2%)
（流動性）	43,993	▲ 273	(▲0.6%)
（固定性）	13,327	144	(1.0%)
うち法人預金	21,676	▲ 15	(▲0.0%)
（流動性）	17,712	▲ 254	(▲1.4%)
（固定性）	3,590	140	(4.0%)
うち公金預金	3,867	32	(0.8%)
海外店預金	1,231	▲ 405	(▲24.7%)
譲渡性預金	2,235	42	(1.9%)

＜預金金利の追随率＞

預金金利は、政策金利に対して普通預金 40%、定期預金 57%程度の追随率※で設定。

※マイナス金利解除後の政策金利の累計引上げ幅（0%→1.25%）に対する、新規預入金利（店頭金利）の追随率。
（定期預金は期間ごとの加重平均で算出）

＜預金利回りの推移＞



個人預金

増強戦略 ＜戦略的な金利商品の展開＞

プレミアム定期 ＜富裕層＞
ﾗｲﾌｲﾍﾞﾝﾄ応援定期 ＜ﾏｽ層＞

特別金利定期預金新規預入額（26/4～26/9） ＋ 495億円

新規預金預け入れは着実に増加

新規預金流入と既存預金定着で預金増強を図る

営業店の業績表彰上のｲﾝｾﾝﾃｨﾌﾞも強化

既存預金の定着化

アプリ機能拡充
金融 ＋ 非金融（資産管理等）
日常に欠かせないアプリへ

10月より自行預金の他行流出防衛の取組み開始

中長期の預金戦略

短期（預金獲得）：顧客セグメント別の預金商品の提案
→ 中期（自然流入）：当行口座のメイン化（給振や年金等）
→ 長期（定着）：利便性・おトク感の向上（アプリ拡充やATM優遇等）
→ 粘着性の高い預金基盤確立へ

法人預金

貸出シェアに見合った預金取引推進の継続と決済取引のメイン化（非対面チャネル）により預金基盤強化を図る。

海外店預金

短期のインターバンク預金を縮小し、通貨スワップによる本支店調達を通じて長期安定的な調達を進めていく。

調達手段の多様化

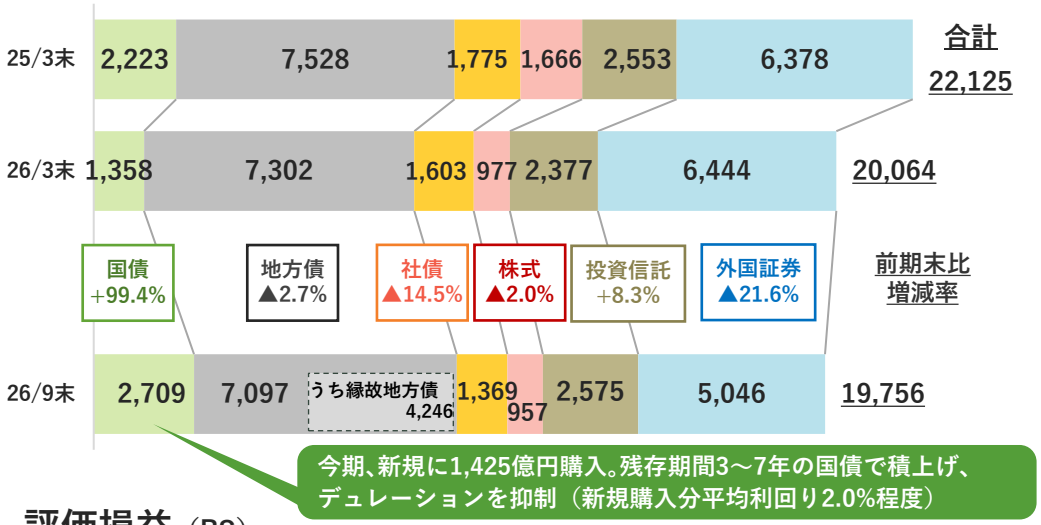
預金増強を軸としながら、RMBSやシニア債発行、CP等も検討。

有価証券の状況

円金利資産の運用強化に向けて国債ポートフォリオの再構築を進める。低利回り国債は今期で処理する方針。

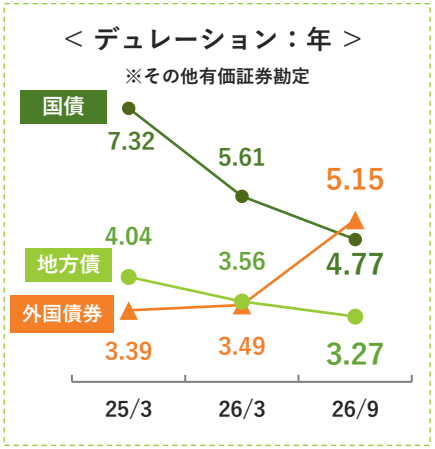
残高（簿価ベース）

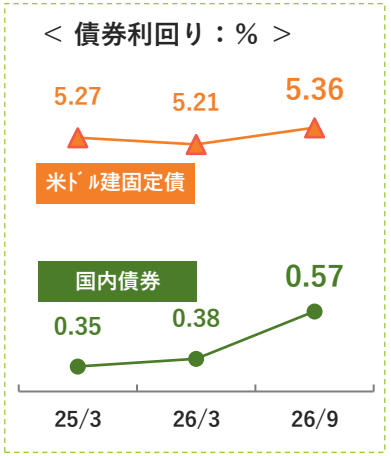
（単位:億円）



今期、新規に1,425億円購入。残存期間3～7年の国債で積上げ、デュレーションを抑制（新規購入分平均利回り2.0%程度）

各種指標





評価損益（BS）

（単位：億円）

	26/3末	26/9末	26/3末比
その他有価証券	1	▲ 261	▲ 263
国内債券	▲ 736	▲ 833	▲ 97
うち国債	▲ 127	▲ 170	▲ 42
（既存低利回り国債）	▲ 127	▲ 147	▲ 20
うち地方債	▲ 336	▲ 396	▲ 59
うちRMBS ※社債	▲ 264	▲ 256	＋ 7
その他	737	571	▲ 165
外国証券	94	▲ 101	▲ 196
投資信託他	▲ 121	▲ 146	▲ 25
株式	764	819	＋ 55
（政策投資）	784	804	＋ 20
（純投資）	▲ 20	14	＋ 35

関係損益（PL）

（単位：億円）

	25/9期	26/9期	25/9期比
合計 （①＋②）	60	87	＋ 26
その他有価証券①	34	31	▲ 3
債券関係損益	▲ 65	▲ 76	▲ 10
うち売却損	▲ 71	▲ 68	＋ 3
（うち国内債）	▲ 70	▲ 55	＋ 15
株式等関係損益	99	107	＋ 7
うち売却損益	99	107	＋ 7
（政策投資）	67	60	▲ 6
（純投資）	32	46	＋ 14
投信解約損益 ②	26	56	＋ 29

非金利業務利益の状況

非金利業務利益は前年同期比+23億円の171億円。第四北越FGのノウハウを共有しデリバティブを強化。

（単位：億円）

＜連結＞	実績 26/9期	25/9期比	年間計画 27/3期
非金利業務利益	171.8	＋23.1	350
法人役務収入	66.0	＋14.6	139
シンジケートローン	(8.5)	(▲2.3)	(23)
ビジネスマッチング	(6.4)	(＋0.4)	(13)
M&A	(5.4)	(＋2.7)	(13)
SDGs関連	(5.5)	(▲0.6)	(16)
デリバティブ（為替／金利）	(22.1)	(＋12.4)	(38)
販売用不動産	(6.5)	(＋0.7)	(14)
ぐんぎんコンサルティング	(4.8)	(＋0.6)	(8)
コベナンツ融資	(1.4)	(▲0.6)	(2)
法人向け事業保険	(1.2)	(▲0.0)	(3)
補助金サポート	(2.2)	(＋1.2)	(2)
その他	(1.4)	(＋0.0)	(2)
預かり金融資産等収入	56.0	＋11.3	114
ぐんぎん証券	(27.1)	(＋8.8)	(54)
投信取扱手数料	(12.9)	(＋3.7)	(25)
保険（個人向け）	(12.7)	(▲1.7)	(25)
遺言信託･遺産整理等	(3.1)	(＋0.4)	(7)
その他	49.8	▲2.8	97
団信配当金戻入	(16.8)	(▲1.1)	(18)
ローン保証料	(▲39.0)	(▲2.4)	(▲77)
基盤役務	(42.6)	(＋0.4)	(83)
住宅ローン融資	(11.3)	(＋1.1)	(20)
その他	(18.0)	(▲0.7)	(52)

主な取組み

法人向けコンサルティング

お客さまの課題解決を起点としたフルスペックアプローチにより非金利業務収益はさらなる拡大へ

デリバティブ

19.7億円（26/3期）→38億円（27/3期）

変化
- 【推進体制】本部中心から営業店へ拡大
- 【統合効果】第四北越FGのノウハウ共有

今後
- 営業店へのノウハウ浸透は順調。10月以降、全営業店で販売を展開。

M&A案件の発掘

7.3億円（26/3期）→13億円（27/3期）

M&Aシニアエキスパート 全支店長に対して 年内での資格取得を推進

支店長の知見強化＆直接関与
営業店の案件形成力の向上

個人向けコンサルティング

フロー収益からストック収益へ

資産管理型営業の実践

全資産アプローチ
他行預金や不動産なども含めお客さまの全資産を把握

ゴールの共有
お客さまの将来の目標やライフプラン等ゴールを共有

銀行 × 証券

資産管理型営業
長期目線で預金を含めたポートフォリオ全体の提案

ふやす 投信/ﾌｧﾝﾄﾞﾗｯﾌﾟ　のこす 保険/相続

＜お客さま＞安定的な資産形成 × ＜当行＞持続的な成長

経費 ／ 与信費用の状況

人件費やキャンペーン、デジタルなど**戦略的投資は強化継続**。**与信費用**は低位安定。金融再生法開示債権額は継続して減少。

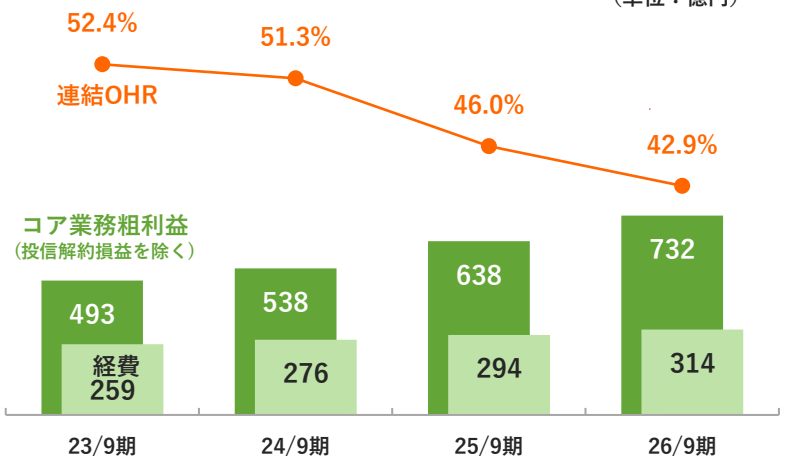
経費の内訳 ＜連結＞

（単位：億円）

	26/9期	25/9期比	主な増減要因
経費	314	＋ 20	
人件費（単体）	166	＋ 11	賞与・株価連動型特別一時金+9 他
物件費（単体）	113	＋ 3	ｼｽﾃﾑ+2（外注、機械賃借他）、広告+1.6 他
税金（単体）	20	＋ 1	外形標準＋0.7 他
連結子会社	27	＋ 5	証券+3.6 他
（連結相殺）	▲ 11	▲ 1	―

OHRの状況 ＜連結＞

（単位：億円）



※OHR＝経費÷（業務粗利益－国債等債券関係損益－投信解約損益）

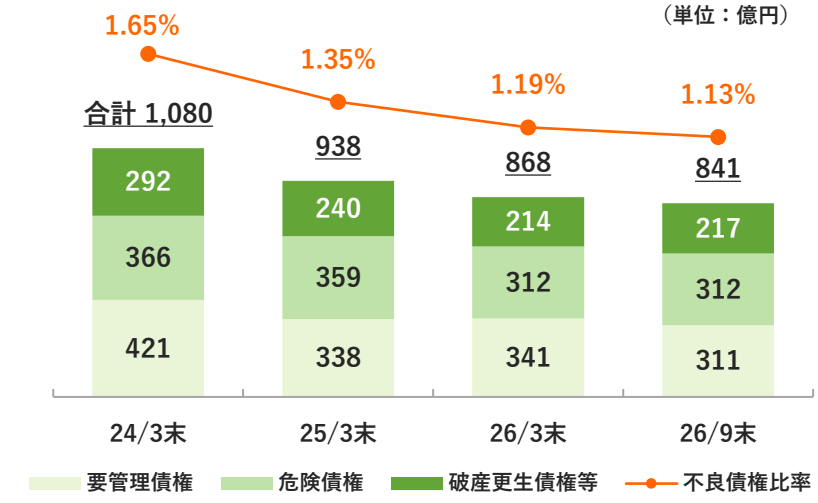
与信費用の内訳 ＜連結＞

（単位：億円）

	25/3期	26/3期	26/9期	27/3期(計画)
与信費用	31	34	19	50
群馬銀行（単体）	23	32	15	42
一般貸倒引当金繰入額	▲ 11	0	▲ 11	▲ 11
実績率変動	(▲ 2)	(▲ 2)	(▲ 0)	(▲ 1)
DCF	(▲ 3)	(6)	(▲ 9)	(▲ 9)
その他	(▲ 6)	(▲ 4)	(▲ 2)	(▲ 1)
不良債権処理額	37	36	35	61
ランクダウン	(63)	(50)	(36)	(68)
回収･ランクアップ等	(▲ 30)	(▲ 25)	(▲ 7)	(▲ 14)
その他	(4)	(11)	(6)	(7)
償却債権取立益（▲）	2	4	8	8
連結子会社分	7	2	3	8
（連結相殺）	▲ 0	▲ 0	▲ 0	▲ 0

金融再生法開示債権･不良債権比率 ＜連結＞

（単位：億円）



※部分直接償却は実施していない

業績見通し（2027年3月期）

連結コア業務純益（投信解約損益除き）は期初計画比+35億円の855億円、連結当期純利益は+25億円の675億円と上方修正。

業績見通し

（単位：億円）

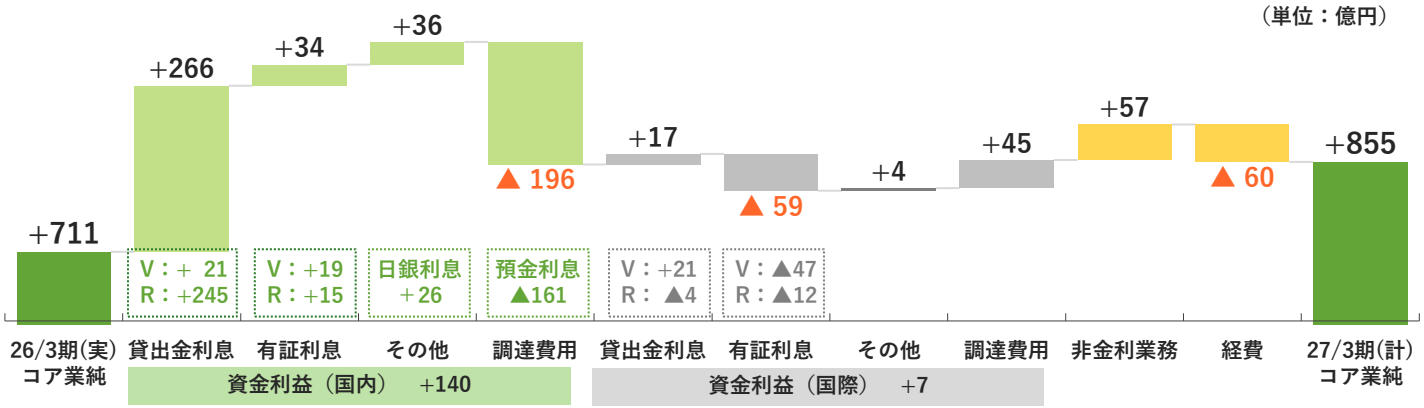
＜連結＞	27/3期	前期比	期初計画比	中期経営計画 Growth with "Purpose" 最終年度(28/3期)目標
コア業務粗利益	1,590	＋244	＋123	
資金利益	1,240	＋188	＋123	
投信解約損益除き	1,165	＋147	＋48	
非金利業務利益	350	＋57	－	350億円
経費	660	＋60	＋13	
コア業務純益	930	＋185	＋110	
投信解約損益除き	855	＋144	＋35	800億円
与信費用	50	＋16	▲5	
経常利益	1,000	＋152	＋50	
親会社株主に帰属する当期純利益	675	＋87	＋25	600億円
OHR（投信解約損益除き）	43.5%	▲2.2%	▲0.5%	45%程度
ROE	10.7%	＋0.7%	＋0.2%	10%以上

（単位：億円）

＜単体＞	27/3期	前期比	期初計画比
コア業務粗利益	1,488	＋227	＋126
資金利益	1,255	＋196	＋125
投信解約損益除き	1,180	＋154	＋50
非金利業務利益	233	＋32	－
経費	630	＋54	＋13
コア業務純益	858	＋173	＋113
投信解約損益除き	783	＋132	＋38
有価証券関係損益	85	▲28	▲47
与信費用	42	＋10	▲8
経常利益	925	＋138	＋45
当期純利益	625	＋78	＋25

連結コア業務純益（投信解約損益除き）の増減内訳

（単位：億円）



平残と利回り（前期比）

【全店】	平残（億円）		利回り	
貸出金	72,779	(+4.0%)	1.80%	(+0.34pt)
有価証券	20,833	(+2.7%)	2.77%	(+0.00pt)
預金	85,415	(+0.7%)	0.45%	(+0.15pt)

【国内】	平残（億円）		利回り	
貸出金	67,658	(+3.5%)	1.61%	(+0.36pt)
有価証券	15,086	(+10.6%)	1.92%	(+0.35pt)
預金	83,761	(+1.4%)	0.38%	(+0.19pt)

株主還元

配当金予想を修正。中間・期末ともに期初公表比2円増配し年間74円（中間37円・期末37円 ： 配当性向 41.5%）。

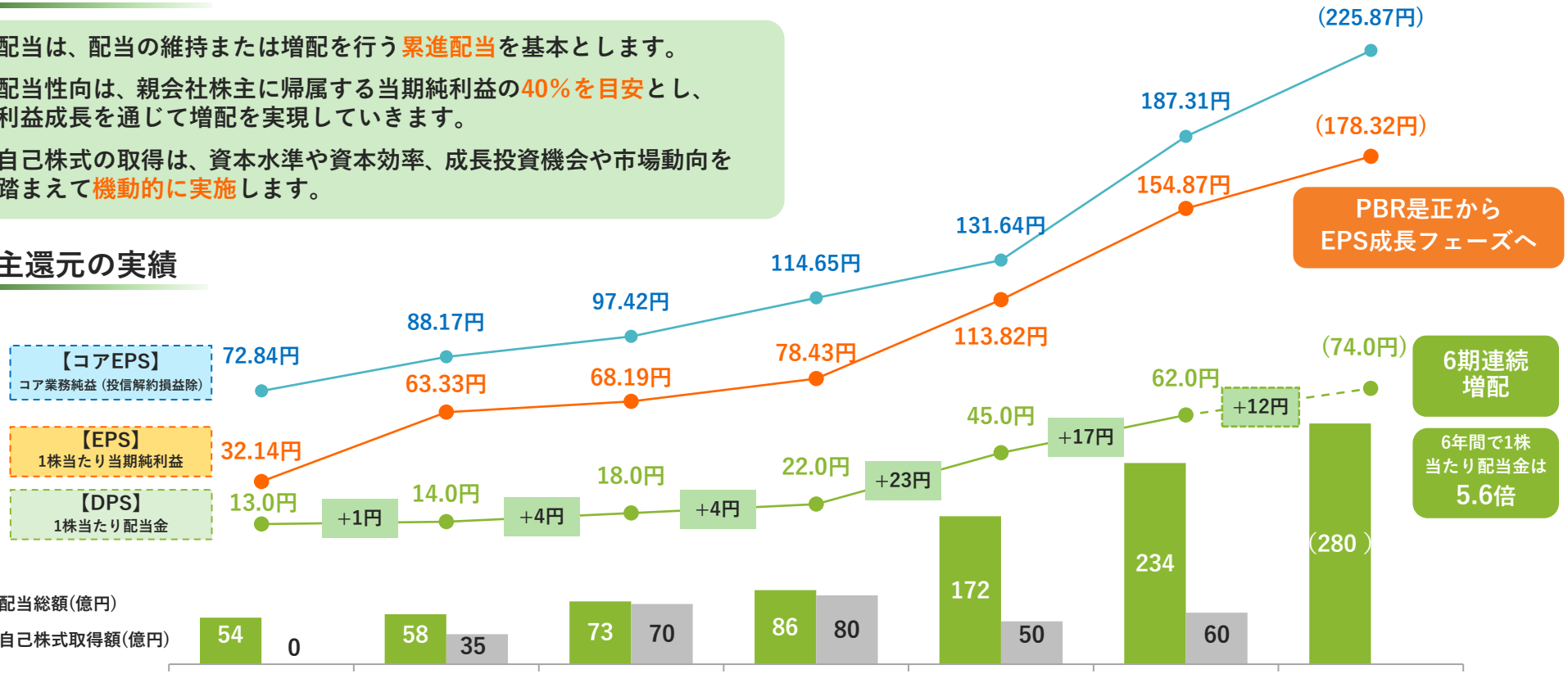
株主還元方針

配当は、配当の維持または増配を行う**累進配当**を基本とします。

配当性向は、親会社株主に帰属する当期純利益の**40%を目安**とし、利益成長を通じて増配を実現していきます。

自己株式の取得は、資本水準や資本効率、成長投資機会や市場動向を踏まえて**機動的に実施**します。

株主還元の実績



	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期	27/3期（予）
株主還元額	54億円	93億円	143億円	166億円	222億円	294億円	(280億円)
株主還元率	46.8%	39.9%	51.4%	53.6%	50.7%	50.1%	－ %
配当性向	40.4%	22.1%	26.4%	28.1%	39.5%	40.0%	(41.5%)
還元方針	総還元率40%目安				配当性向40%目安（累進配当）		
対象利益	単体ベース			連結ベース			

※自己株式取得額(四捨五入表示)は株主総会を起点とする1年間で計算

本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。本資料に記載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。

本資料には将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意下さい。



本件に関するお問い合わせ先

株式会社群馬銀行　総合企画部（IR担当）

TEL：027-254-7051・7053　　E-mail：gbir@gunmabank.co.jp